

	庁舎分散案A 【駅北(新築)+別館(修繕)+花咲(修繕)】	庁舎分散案B1 【短大(新築・体育館合築)+別館(修繕)+花咲(修繕)】	庁舎分散案B2 【短大(新築・既存体育館継続)+別館(修繕)+花咲(修繕)】	庁舎分散案C1(現状敷地) 【現地(新築)+別館(修繕)+花咲(修繕)】	庁舎分散案C2(周辺買収) 【現地(新築)+別館(修繕)+花咲(修繕)】
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 市の将来施策である駅北開発のランドマークとして期待できる。 建設着手の即効性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設等総合管理計画で建替方針の体育館を同時に新築できる。 庁舎と短大、大型商業施設や郵便局などが近接するので産官学の相互連携による賑わいの醸成に期待が出来る。 短大の施設(会議室など)・庁舎施設の相互利用が期待できる。 駐車場が十分に確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短大グラウンドの敷地を利用することにより、配置計画の自由度が高い。 庁舎と短大、大型商業施設や郵便局などが近接するので産官学の相互連携による賑わいの醸成に期待が出来る。 短大の施設(会議室など)・庁舎施設の相互利用が期待できる。 駐車場が十分に確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設着手の即効性がある。 庁舎が実質的に2分散で済む。 現位置であるので市民の認知性が高い。 国道沿いであるため視認性が高い。 既存商店等への影響が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地を拡張することにより、配置計画の自由度が高い。 庁舎が実質的に2分散で済む。 現位置であるので市民の認知性が高い。 国道沿いであるため視認性が高い。 既存商店等への影響が少ない。 駐車場が十分に確保できる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 庁舎が3分散となる。 本庁舎がペDESTリアンデッキ上となりバリアフリーの観点に欠けるため、バリアフリー化を徹底すると整備費と維持費が増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁舎が3分散となる。 短大学生のサークル活動や広域避難所として、建替え中(約2年間)に体育館の利用ができない。 新庁舎が街道沿いから離れる(奥の位置になる)ため、視認性に欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁舎が3分散となる。 短大グラウンドの敷地が狭くなる。 新庁舎が街道沿いから離れる(奥の位置になる)ため、視認性に欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮庁舎への移転がある分、引越し回数が増える。 敷地が狭いため配置計画の自由度がない。 建設期間中の仮庁舎へのアクセス性が担保されない。 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修促進計画の計画期間内(令和7年度期限)に本庁舎の除却が達成できない。※C2案以外は除却の設計には着手できる。
潜在的リスク	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場を確保できるか見通しが不明である。 駅北側の開発計画等の実現に目途が立っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館を最上階とするため、避難所としてバリアフリーの観点に欠ける。 不特定多数の来庁者があり、短大のセキュリティへの影響が考えられる。 利便性の確保には進入路の整備が必要であり、用地買収の目途(確実性)が立っておらず、権利者は少ないが時間を要することも想定される。 短大の学生募集への影響は未知数。 	<ul style="list-style-type: none"> 不特定多数の来庁者があり、短大のセキュリティへの影響が考えられる。 利便性の確保には進入路の整備が必要であり、用地買収の目途(確実性)が立っておらず、権利者は少ないが時間を要することも想定される。 短大の学生募集への影響は未知数。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場を十分に確保できるか見通しが不明である。 仮庁舎(リース)の用地確保に市有地等の調整が必要である。 敷地内のレベル差があり建築計画に影響がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 用地買収の目途(確実性)が立っておらず、かつ長期的な対応が想定され時間を要する。 敷地内にレベル差があり、建築計画に影響がある。
総評	<p>立地が駅前であるという好条件ではあるものの現状で駅前広場や橋上駅舎、南北自由通路などの駅前整備等が凍結され、敷地周辺を含め開発の見通しが立っていないので、本候補地に建設した場合には利便性に欠け、アクセス面で代替措置の必要も想定される。また、将来的な駅前整備等に配慮するため、ペDESTリアンデッキ上に建設しなければならないが、アクセス性やバリアフリー化の対応を考慮すると、早期の安心安全な庁舎確保は見込まれるが、費用面、市民サービス面で課題が残る。</p>	<p>体育館を合築(建替える)するので公共施設等総合管理計画の建替え方針が達成されるため、大月市全体として考えた場合の将来的な施策(財政支出)に対する効果、有効性があるものの、短大生の利用や広域避難所として体育館を継続利用できないこと、敷地制限から庁舎の屋上に体育館を建設することによるコスト高などの課題があり、その解決が可能であれば、早期に安心安全な庁舎確保が見込まれる。</p>	<p>利便性については、現本庁舎敷地より若干劣るものの、実現するためのリスクや課題が少なく、付加整備費が殆どかからず整備費が抑えられ、スケジュールも早い供用開始が見込めるため、早期に安心安全な庁舎確保が見込まれる。</p>	<p>交通アクセスの利便性も高く、また現位置であることから市民の認知性、周知性も高いものの、庁舎機能を継続させるために仮庁舎が必要不可欠で多額の費用を要すること、現状と同じ庁舎配置や駐車場の確保が十分にできないなど市民サービス向上が期待できないことを考慮すると、早期の安心安全な庁舎確保は見込まれるが、費用面、市民サービス面で課題が残る。</p>	<p>用地買収により、現状の不整形な敷地も解消され自由度の高い配置計画が見込め、十分な駐車場が敷地内に確保でき、交通アクセスが良好であることも含め利便性が高く、現位置であることから市民の認知性、周知性も高い。一方、用地買収の交渉が長期間に及ぶ可能性があり、現庁舎を引き続き利用することの安全面でのリスクがあり、安心安全な庁舎確保には他の案よりも時間を要する。</p>



庁内検討委員会の結果	<p>大月短期大学敷地案は、整備費用が抑えられ、早期に建設に着手できるというメリットはあるものの、大月市役所本庁舎敷地のC2案は、認知性、利便性、将来性などに優れ、用地交渉の労力と時間がかかっても他案より優位性が高い。</p>
------------	---